

踏まね踏まれても生き返る

NO.1 2024.5.2

# いたばし雑草通信

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。PDFでお送りします。

アズマネザの花 イネ科 竹の花ほどでもないけれど開花が見られるのは珍しい！

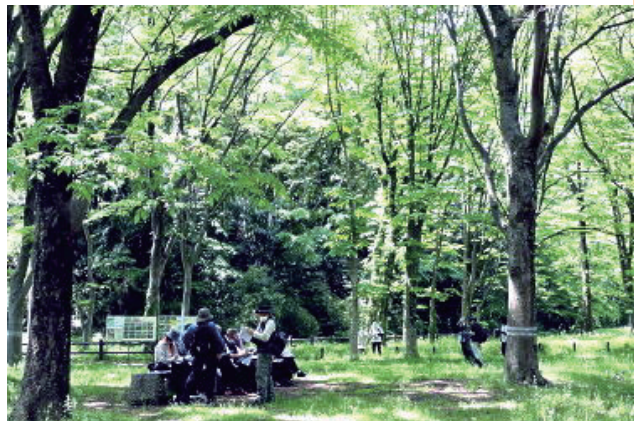


板橋区立エコポリスセンター事業 環境調査

## 春の植物一斉調査始まる！

エコポリスセンターの「かんきょう観察員」による区民参加の一斉調査が始まりました。近年では蝶の調査などとテーマを替えながら取り組まれてきてきました。木村が担当を受け持つ植物調査は2019年度からで、今年度は5回目になります。木村は「赤塚公園ニリンソウを守る会」の活動からも引退したこともあり、この事業も「次の人」に交替してもらおうと思っています。そこで、今年度は「誰でも取り組める植物調査」を広めるために前回とは趣を変えた取り組みにしました。調査原票のエクセルデータ移行作業もわたしよりも高度なエクセルの使い手が現れてきて、大いに期待しているところです。

調査エリアに入る前の駅前街路ではオオムラサキの植栽の下から伸びたアズマネザサに花が咲いているのを観察、さらに赤塚城址でしか観察できなかったチチコグサも見つかって、新緑の下での気持ち良い調査活動のスタートになりました。



## チチコグサ キク科 ありそうで、なかなか見つけれない花



### ウラジロチチコグサ キク科

一人がよくとおる道の縁石の上の草地で、踏みつけられたのでしょうか、地面に張り付くように誰にも気づかれずに咲いていました。ウラジロチチコグサ（写真右上）やチチコグサモドキはよく見られるのですが、「本物の父親」は滅多に見られません。葉が細長いのが特徴ですが、花の形も微妙に違っています。でも、美しいのがすべての父（おやじ）共通の姿。

## 創意と主体性が伝わってくる ——エコポリスセンターかんきょう観察員の自主活動——

板橋区前野町にある区立エコポリスセンターは、人と環境が共生する都市「エコポリス板橋」の実現を目指し1995年（平成7年）に設立されました。環境問題に関して教育プログラムなど啓発事業を進める行政機関として全国的にも先駆的存在として注目を集めました。さらに、ボランティア市民活動を行う団体はボランティアセンターに集約されていた当時としては珍しく、環境問題に取り組む市民活動団体もここに集まってきました。

2012年には指定管理者制度が導入され、現在の事業運営は民間団体に任されていますが、設立後30年近くも経つと、その事業数は複雑に多様化する一方で、「登録環境団体」も高齢化・活力低下が目立ち、木村から見ると、何をしているのかが分からない団体やセンターの最大事業である「環境なんでも見本市」でも顔を見たことがない団体も目立つようになりました。

そんな中で、1989年以来毎年、区の事業として取り組まれ、その後エコポリの事業に組み込まれてきた「かんきょう観察員」の事業は区民の自主参加が原点になっているのでしょうか、活力ある活動が見られます。「自主活動グループ」や「自由研究の発表」を行っている個人の中に、ぜひ環境なんでも見本市にも出展してもらいたいと思える活動が増えました。

これからは、そんな「もう一歩前を出てほしい」グループ・個人を応援する活動に力を入れていきいと思うようになりました。活動の情報は以下のエコポリスセンターのホームページから「参加したい・活動したい」のページへ、さらに「かんきょう観察 自由研究」のページをたぐっていくと閲覧できます。

<https://itbs-ecopo.jp/event/learn/post-49565/>

